

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 飯山小学校

厚木市教育委員会の基本目標
 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 山内 夕

学校教育目標	学校経営の方針
元気いっぱい 楽しく学び 自信をもって 未来を拓く 飯山の子	・教師がやりがいを感じる学校 ・児童が楽しいと感じる学校「飯山の子 育成方針」 ・家庭、地域から信頼される学校

今年度の重点目標

- (1)【学力の伸長】……知的好奇心を大切にしたいわかる・できる・楽しい授業づくり、家庭学習の習慣化
 (2)【豊かな心の育成】……楽しく活気のある学校づくり、児童指導・支援体制の充実
 (3)【健康・安全・地域】……自他の安全を守ろうとする判断力と行動力を育む安全教育の推進、元気を生み出す健康・体力の充実、「ふるさと飯山」を軸とした特色ある教育の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果(○)と課題(●)	次年度への具体的な改善策
【学力の伸長】 知的好奇心を大切にしたいわかる・できる・楽しい授業づくり	1・2	・「聴くこと」を大切にしたい授業展開を図った。	●友達や教師の話を考えながら聴いたり、自分の考えと比べながら聴いたりする態度に課題が残る。	・次年度、国語科の研究を行っていく中で、一つの柱と位置づけ取り組んでいく。
	1	・国語科、算数科における知識・技能の定着を図った。	○100マス計算で2分を切ることを目標に継続して取組を進め、一定の効果が見られた。技能が向上しつつある。 ○国語の基礎・基本の定着を目指して、ミニ研修を通年で実施した。特に、漢字ドリル、計算ドリルの効果的な指導方法について学ぶことができた。	・飯山タイムやチャレンジウィークの活動と関連付け、知識・技能を定着させていく。
	1	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行った。	○学習形態の工夫(ペア・グループ・話し合い活動)や体験学習の充実を通して、新たな見方、考え方へと発展させるような手立てを講じることでできた。	・各教科で学習形態の工夫へと発展させていく。
	1	・1人1台端末を生かした授業を工夫した。	○昨年度よりも大幅に活用率が向上し、幅も広がった。飯山タイムにおけるクロームブックの活用も進んでいる。	・引き続き、活用を進めていく。
	1・2	・学校図書館活用の充実を図った。	○関連図書を用いた学習や並行読書など、学校図書館の本を授業で活用することができつつある。	・図書館教育と校内研究を関連付けつつ、研修の機会を設けて、さまざまな活用の仕方を学ぶ機会を作る。
	1・2	・校内研究の推進を図った。	○算数科の研究に取り組み、研究テーマの達成に向けて指導法を改善して進めていくことができた。	・授業力向上につなげていくために、これからも校内研究やミニ研修を継続していく。
	1	・職員研修・ミニ研修の充実を図った。	○ミニ研修の充実や夏休みを利用した研修、担当から学便りの発行等によって、研鑽を重ねることができた。	・授業力向上につなげていくために、これからも校内研究やミニ研修を継続していく。
【学力の伸長】 家庭学習の習慣化	1・2	・家庭と連携した自主学習を推進した。	○毎日の漢字練習や音読、説明学習に忘れずに取り組むように指導し、家庭との連携を図ることができた。 ○学年に応じて自主学習の方法を示し、学び方を指導することで、少しずつ基盤ができてきた。 ●保護者のアンケートから、「宿題しかやらない。」「自主的に勉強しない。」「習慣化していない。」との意見があった。	・自主学習を通して身に付けさせたい力を学校全体で共通理解して明確にし、家庭との連携をさらに推進していく。
	1・2	・読書活動を推進した。	○読書週間で啓発をし、本に親しんだり、読書の幅を広げたりする指導を行うことができた。	・朝読に読み聞かせに来てくださる「おはなしたんぼぼ」の取組の充実等、多方面から読書の楽しさにふれる機会を作る。

	1・2	・説明学習の継続的取組を行った。	●今年度も継続して行っているが、ねらいや到達度の共通理解や各家庭への周知が難しく、取組の度合いにも差があることから、課題が見えてきたところである。	・身に付けさせたい力を学校全体で共通理解して明確にし、自主学習に統合していく。
【豊かな心の育成】 楽しく活気のある学校づくり	2・3	・よりよい学級をつくろうとする児童の発達段階に応じた学級活動の充実を図った。	○学級目標や係活動決め、行事に向けてのテーマなど、クラスで話し合う時間を大切にしながら進め、自主性が育ってきている。 ●予定変更による時間削減や想定を越えた話し合い等の状況も出てくることから、計画と実施時数との兼ね合いで難しさも生じている。	・計画的に進めていくことを再確認し、取組を継続していく。
	2・3	・よりよい学校をつくろうとする児童の創意工夫を生かした児童会活動の充実を図った。	○あいさつ運動やふれあいフェスティバル(児童会行事)に向けて、児童の考えや発想を生かしながら進めることができた。 ○よりよい学校生活を送るための工夫として、6年生が企画・立案をし、「校内文字探し」で全校児童に発信した取組も見られた。 ●あいさつについては、保護者からあまりできていないという意見もあった。	・ふれあいフェスティバルについては、より児童の考えや思いを引き出すことを目指して実践していく。 ・児童が主役で学校が明るくなる企画を後押しできるように努める。 ・あいさつ運動の取組を活用して、引き続き、あいさつの大切さを呼びかけていく。
	2・3	・お互いを認め合い、高め合える人間関係の育成を図った。	○個も集団も共に大切にしながら学級経営を進めることで、人間関係の育成を図ることができた。 ○担任をはじめ、個々の児童に関わる教員相互の情報交換を、適宜行うことができた。 ●縦の繋がりも高めていけるよう、縦割り活動も少しずつ進めているが、まだコロナ禍前と同等には戻っていない。	・個も集団も共に大切にしながら、学級経営を続けることで、よりよい人間関係作りを図っていく。 ・教員相互の情報交換を続けていく。 ・縦割り班活動は、でき得ることを意見交換しながら決定し、効果的な実施を目指す。
	1・2・3	・自己肯定感を高める指導と支援を行った。	○自分や友達の良いところを探す授業を実践し、互いを認め合う時間を作ることができた。	・人権週間の取組を継続する。 ・キャリアパスポート等を利用しながら、みんなが認め合える時間や取組の機会を意図的につくる。
【豊かな心の育成】 児童指導・支援体制の充実	2・3	・全職員の協働体制によるインクルーシブ教育の充実を図った。	○通常級担任と特別支援学級担任との連絡会や、職員会議後の情報交換時に、児童の様子や必要な声かけ等の方向性を示すことができた。	・効果的な連絡会や職員会議後の情報交換を続けていく。
	2	・全職員による児童理解・チーム支援を推進した。	○各週の児童指導・支援の出来事をまとめ、情報集約をし、連絡掲示板で重要事項として全職員と共有した。 ○この継続が、情報の共有と職員間での共通理解を促し、それを踏まえた上で児童との関わりや支援につなげることができた。	・児童指導や支援の方向性については、担当が情報集約をし、職員周知を継続していく。
	2	・児童の成長につながる児童指導を進め、問題行動の「未然防止」「早期発見」「適正な対応」を実践した。	○教職員個々の「気付き」を、学年間またはチームで分かち合い、役割分担をしながら児童と関わる事ができた。 ○毎学期の児童アンケートや児童理解週間を大切にしながら面談を行う等の対応をし、未然防止を図ることができた。	・今後も児童アンケートを活用し、児童理解に努めていく。

【健康・安全・地域】 自他の安全を守ろうとする判断力と行動力を育む安全教育の推進	2・3	・交通安全の充実を図った。	○自転車用ヘルメットの着用率、防犯ブザーの携帯率などについて、月1回生活アンケートを実施することで、児童が進んで身の安全を守る意識が身に付いてきた。 ○学年に応じた安全指導、登下校指導を継続的に行っていることが、交通安全の推進につながっている。	・月1回の生活アンケートでの実態把握と携帯の徹底を継続し、保護者と連携しながら、身の安全を守る意識を高めていく。 ・登下校での児童の困り感や危険箇所の把握など、適宜、登校班長会議や班会議を行い全体への共有を図る。必要に応じて、保護者や地域の見守りの方との情報も共有する。
	1・2・3	・防災教育の充実及び防犯教育の充実を図った。	○避難訓練(火災、地震)、不審者侵入を想定した防犯訓練、休み時間の緊急訓練を通して、自分自身の身の守り方や意識を高めさせることができた。	・引き続き、防災・防犯訓練を計画的に実施し、教職員の動きを確認するとともに、児童が自分で判断して身の安全を守る行動がとれるように指導していく。 ・交通安全教室は「(株)人の森」の協力のもと、トラックの内輪差、運転席からの死角体験と横断歩道の渡り方体験を隔年で行っていく。
	2・3	・安全な校内環境の整備を推進した。	○毎月の安全点検を行うとともに、緊急に修繕を必要とする場合が生じた際など、適宜管理職に報告し修繕依頼を行うことで、事故の未然防止を図ることができた。	・毎月の安全点検の継続を通して、児童の安全を第一に考え、校内環境の状況を確認する。 ・必要に応じて迅速に修繕依頼を行うことで、引き続き、安全な校内環境の整備を行っていく。
【健康・安全・地域】 元気を生み出す健康・体力の充実	1・2	・体力づくりの充実(体力づくり旬間、外遊びなど)を図った。	●一輪車、竹馬等の貸出し、全校遊びは今年度も見送っている。 ○体力チャレンジ旬間として、2学期に持久走・マラソン大会、3学期に縄跳び・長縄の実施することができ、児童の意欲と体力の向上を目指すことができた。	・今年度同様に、2学期に持久走、3学期に縄跳び・長縄に取り組んでいく。 ・水泳学習を今年度の2回実施から3.4回の実施へと指導回数を増やしていく。
	2・3	・基本的な生活習慣の確立を図った。	○月1回の生活アンケートを通して、早寝早起きや感染症対策として手洗いやうがいの習慣、ハンカチ、ティッシュの所持等、児童の実態を把握することができた。 ●2学期からChromebookを活用して、アンケートを集計できるようにしたが、結果を校内全体に提示できていないことが課題として残った。	・月1回の生活アンケートを通して、児童の実態把握を継続して行う。 ・併せて改善や促進を図るために集計結果の提示、委員会の活動として、ポスター作りやお便り等を発行し、児童同士で意識を高められるように指導する。
	2・3	・食育の推進と清掃活動の推進を図った。	○縦割り班清掃では、2学年の縦割り班清掃を定着させることができた。 ○縦割り班での清掃活動や除草作業を通して、高学年のリーダー育成を進めてきた。児童同士、互いに声を掛けながら、低学年も進んで取り組んでいる様子が見られるようになり、活動の効果がでてきている。	・縦割り班清掃は、職員アンケートの結果、今年度と同様に活動を進めていく。引き続き、縦割り班活動のよさを生かした活動になるよう検討していく。 ・除草作業は、環境保健委員会と協力して校内放送で全体に知らせたり、作業に必要な道具を準備したりして、児童が自主的に進められるように取り組んでいく。

【健康・安全・地域】 「ふるさと飯山」を軸とした特色ある教育の推進	1・2・3	・「生活科」「総合的な学習の時間」の充実を図った。	○地域やJAの方と連携しながら、稲(お米作り)やサツマイモ掘り等の栽培活動を実施することができた。 ○「ふるさと飯山」を意識した教育活動について、総合的な学習の時間を中心に教科横断型の学習に生かすように意図的に取り組むことができた。 ●保護者からは、地域の良さに対して、どんな取組をしているのか知りたい。飯山らしさのイベント等の活動をあまり感じないという意見があった。	・「ふるさと飯山」を生かした教育活動について、地域の特色、よさを児童が「もっと、知りたい、伝えたい」と思える探求学習を進めていくように、学習計画を進める。
	3	・学校からの情報発信を行った。	○HPや学校だよりを活用して校内の行事や活動の様子を報告することができた。	・HPや学校だよりを活用して、学校行事や学年の活動の様子を引き続き発信していく。
	2・3	・学校運営協議会との連携を推進した。	○教育活動ボランティアとして、ふれあいフェスティバルの前日準備や当日の手伝い、飯山チャレンジにおける学生ボランティアによる支援など、新たな連携を始めることができた。 ○登下校見守りボランティアについては、公民館だよりも情報を掲載することで、見守りの強化を図ることができた。	・「ふるさと飯山」を軸とした教育活動が進められるように、学校運営協議会での情報の発信や教育活動への協力を相談できるようにしていく。 ・授業の指導計画に沿って、さらに連携を推進していく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
今年度の飯山小学校ランドデザインに基づいた各グループの取組とその成果と課題についてご理解をいただいた。また、「小規模校としての良さと、アットホームな雰囲気がある。」「教職員の目がとても行き届いている」「自然豊かな環境に恵まれ、子どもたちがのびのびと育っている。」との温かいご意見をいただいた。今後も、お互いに連携を図り、恵まれた自然環境や設備、小規模校の良さを生かした特色ある教育活動を協働で推進していくという考えで共通理解をした。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
学校教育目標の実現のため、本校の特色を生かした教育活動を推進してきた。「学力の伸長」「豊かな心の育成」「健康・安心・安全づくり」の3分野でのグループ会議を通して、重点目標や具体的な取組を確認し、実践につなげることができた。昨年度できなかった保護者の参加・協力によるフェスティバルが実施でき、児童のいきいきとした姿が見られた。また、飯山チャレンジ、読み聞かせボランティア、交通安全教室など、地域の人材・環境を活用したボランティア活動や支援を前進することができた。次年度も、児童自らが判断し実践できるよう、主体性を高める取組を推進していきたい。また、保護者や地域とともに飯山小学校の未来像を描きながら、40周年行事等を通して協働の推進を図り、全職員が学校づくりの当事者意識をもって、学校運営に参画することを目指していく。				